



事例紹介

体力低下が原因となる労働災害対策

～体力機能も作業適応能力のひとつとして捉えた取り組み～



2019年8月5日（月）

J F E スチール(株)西日本製鉄所（倉敷地区）

安全健康室 ヘルスサポートセンター 作 智之



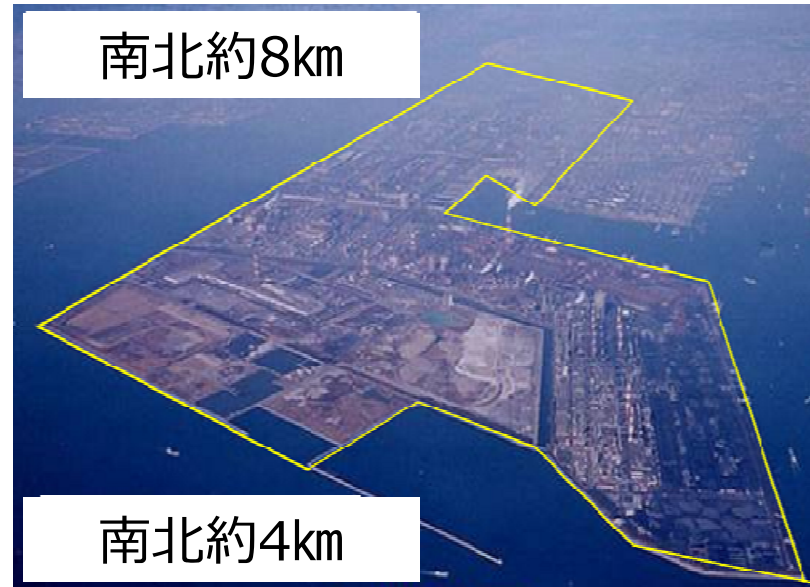
J F E スチール株式会社

(2018年度粗鋼生産世界第8位 2019年3月従業員連結 44,969人)

2003年(H15年)4月(川崎製鉄+NKK)統合



安全健康室 ヘルスサポートセンター
2003年4月統合と同時に開設



1,089万㎡ 東京ドームの230倍

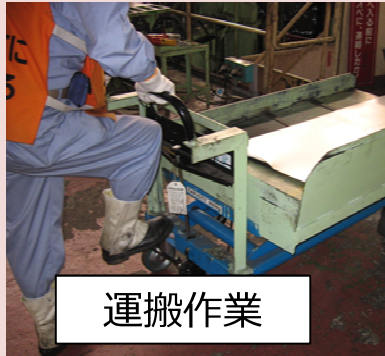
「倉敷地区」

2003年統合時 5,635名 (直・出)

2017年7月現在 4,274名 (直・出)

製鉄所の主な作業

筋出力の高い作業



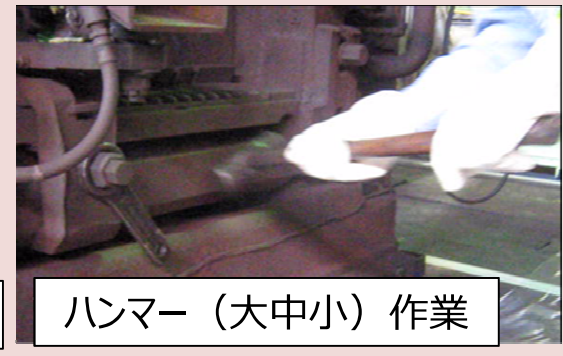
運搬作業



重筋作業



設備メンテナンス作業



ハンマー（大中小）作業

移動の多い作業



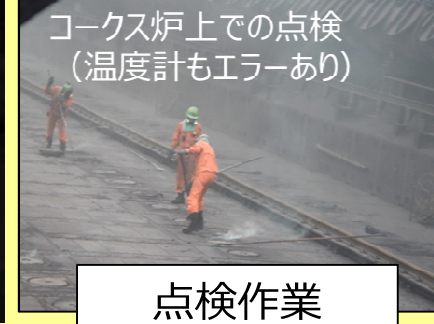
高所作業



狭路移動作業



無線クレーン運転



コークス炉上での点検
(温度計もエラーあり)

点検作業

拘束性の高い作業



大型天井クレーン運転



特殊車両運転



オペレーター作業

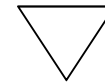


製品検査作業



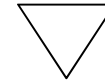
2004年～ 全従業員を対象とした対策！

運動器疾患や転倒災害予防として体力機能の評価や維持・向上を行うための方法の開発や正しい動作の獲得方法が重要



筋骨格系疾患や転倒を発生しにくい身体作り

筋骨格系疾患や転倒の発生リスクの評価と改善



「アクティブ体操®」
part 1 & 2

「安全体力®」
機能テスト

◆元気で長く働くため全社員が実施する体制を構築

体力低下に伴う取り組みの背景

2003年統合当時転倒災害と筋骨格系疾患が多発

転倒災害

1999年～5年間
転倒災害の約半分以上が40歳以上



滑って転倒

私傷病

- ・休業件数率：1999年～6年間
 - ・休業日数率：1999年～5年間
- 腰痛：筋骨格系疾患がワースト 1



腰痛



膝痛

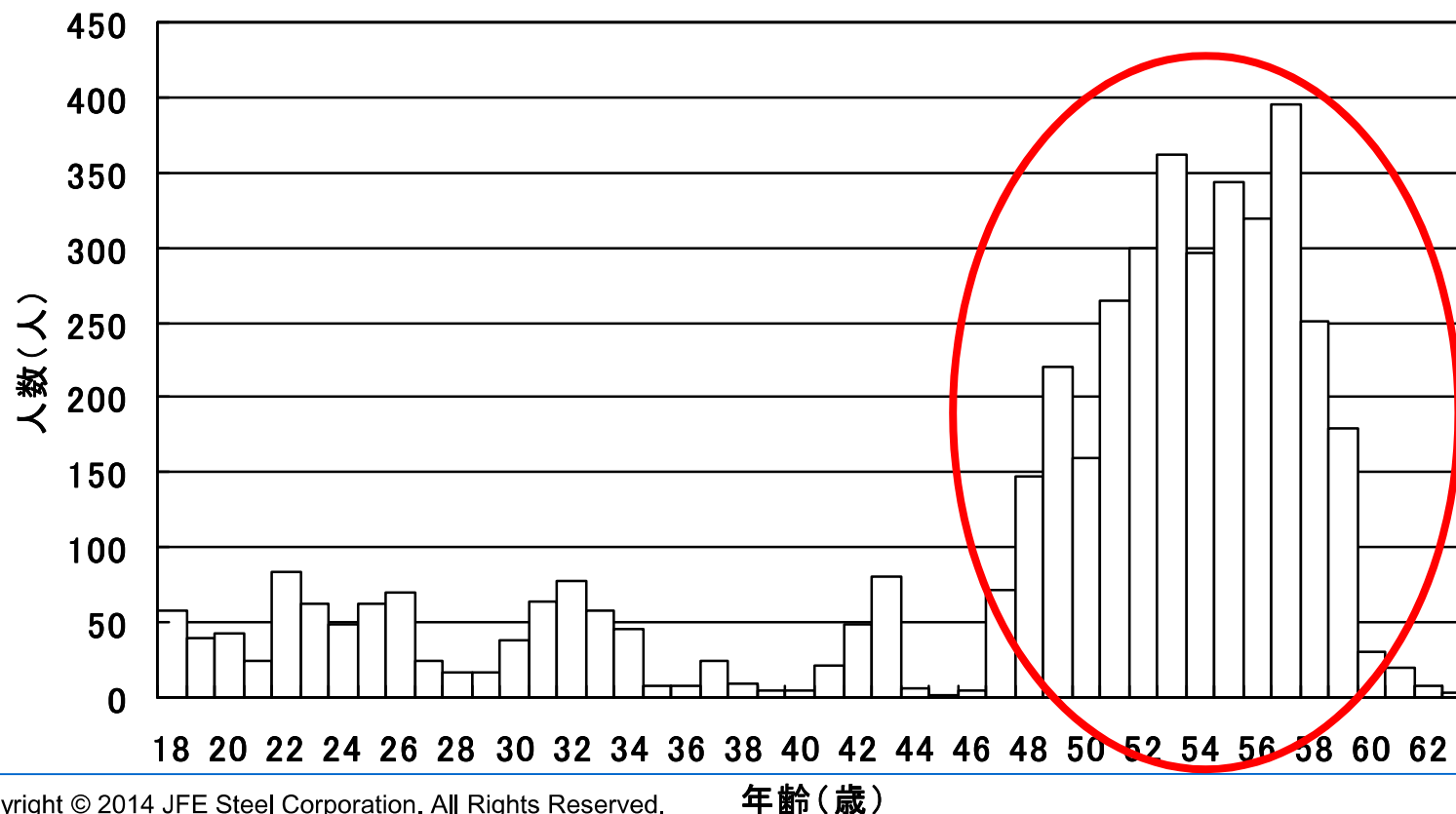


取り組みの背景：統合時の従業員の高齢化

★倉敷地区（直・協 5,635名 46.5歳±9.5）

2003年統合当時 **40歳以上 79%**を占める

2006年～**雇用延長制度導入予定**（シニアエキスパート制度）





取り組みの大きなきっかけとなった転倒災害



再発防止対策は？

柵設置 救命胴衣着用 水深表示



環境・設備・規則



63歳という年齢に注目すると・・・身体要因の問題が潜んでいたかも？

- ① バランスや筋力が低下？
- ② 視力の低下？
- ③ 服薬の副作用？ など

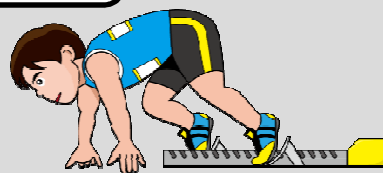


身体機能面の対策は**複雑**なため**安全対策**として
具体的な対策はとられなかった
身体機能 ≠ 安全対策

事前に、安全に作業が行える体力があるか、確認できれば・・・

競技の安全と円滑
= 参加標準記録や指標

東京都 100m
国体参加標準記録



成年男子 A標準10秒35 B標準10秒45

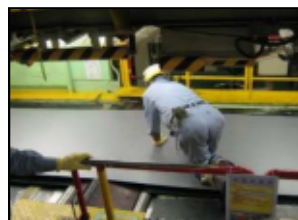
必要な能力やスキルの獲得
= 適正検査や講習、教育

技能講習や特別教育



建設業労働災害防止協会富山支部HPより

①身体負荷の高い作業も多い



②作業環境の悪い所も多い



足首骨折



鼻骨、上顎骨折

